

# 平成 18 年度新農薬実用化試験で注目された 病害虫防除薬剤

日本植物防疫協会 調査企画部 **森田 恭充・新井 真澄・門田 健吾**

平成 18 年度の新農薬実用化試験については、10 月 19 ~ 20 日の茶試験成績検討会を皮切りに、稲・野菜関係の地域成績検討会並びに総合判定会議、果樹等試験成績検討会、生物農薬試験成績検討会など順次開催され、依頼された薬剤の各種病害虫に対する効果や薬害、使用方法の検討が行われた。ここでは、平成 18 年度に依頼された試験の中で、注目された薬剤並びにその傾向について紹介する。

## I 新農薬実用化試験の動向

### 〔病害防除剤〕

本年度依頼された試験薬剤は 226 剤(生物農薬を除く)であった。これら薬剤についてそれぞれ複数の作物、病害に対し延べ 2,137 件の試験が公的試験研究機関などで実施された。成分が新規化合物単剤もしくは新規化合物同士の混合剤である製剤は 35 剤 (15.5%)、新規化合物と既知化合物の混合剤は 19 剤 (8.4%) であり、例年と比べ増加した(図-1)。全体の試験件数を見ると昨年度に比べおよそ 1 割強の増加となったが、これは別項で述べる稲、野菜分野で新規化合物が登場したことが大きく影響している。

稲・麦の関係では、昨年に引き続き薬剤数、試験件数ともに多い傾向にある。これは新規製剤が登場したことによる影響も大きいですが、ここ数年、多くの育苗箱処理剤が 1 剤で幅広い使用方法を取得するために、播種時から移植当日までの多くの処理を試験していることによると考えられる。一つの製剤が栽培中の様々な場面で使用できる多様な処理方法をもつことは、使用者にとって大きな魅力となるであろう。なお、久しぶりに生物農薬でない種子消毒剤が試験依頼されたことも件数に貢献した。

野菜関係においても件数は増加した。これは、後に述べる新規化合物単剤(表-1)のほか、それらの新規化合物と既知化合物との混合剤がいくつか登場したためと思われる。これらの薬剤はうどんこ病をはじめ灰色かび病、菌核病等、また剤によってはべと病や疫病などの主

要な作物病害に幅広く試験実施された。

果樹関係では、いずれも大幅な増加が見られた。薬剤数では寒冷地果樹分野で昨年より 12 薬剤多い 29 薬剤、試験数でも落葉果樹で約 60 件、寒冷地、常緑果樹でそれぞれ約 40 件の増加であった。昨年度より 140 件あまり多い試験を関係機関において実施いただきご苦労をおかけした。この場を借りてお礼申し上げる。なお今年度は依頼件数がかかなり多かったため未受諾の試験が目立ち、特にうめの各病害では顕著であった。茶では昨年とほぼ同様、芝草では若干の減少となった。

生物農薬は昨年に比べやや減少し、18 剤、146 件の試験が実施された。稲の種子消毒を対象とした試験は相変わらず多いが、今年度はこの分野に新規製剤がなく一段落した印象を受ける。しかし新しい試みとして、野菜の病害に対して成分が細菌同士、あるいは細菌と化学農薬を組み合わせた混合剤が登場し、相変わらず盛況であった。

### 〔虫害防除剤〕

本年度依頼された薬剤数は 282 剤で(生物農薬を除く)、それぞれ複数の作物・害虫に対して延べ 3,155 件の試験が実施された。新規成分の単剤は 30 剤、新規成分と既知成分の混合剤は 13 剤であった(図-2)。

試験分野別に見ると、稲・麦分野では、新規殺菌剤との混合箱粒剤の登場で、大幅に試験件数が増加し 561 件が実施された。箱粒剤が多かったことから、イネドロオイムシ・イネミズゾウムシを対象害虫とする試験が倍増した。

野菜分野では、従来この分野に入っていた家庭園芸用

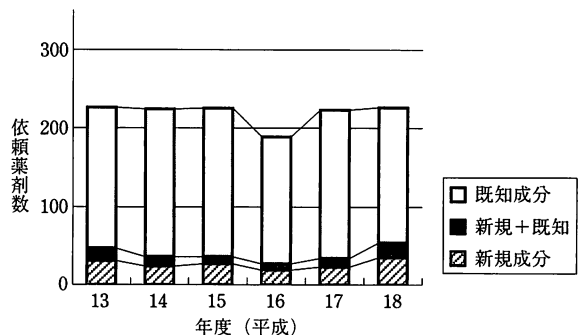


図-1 病害防除剤効果試験依頼薬剤数の推移

The Remarked Pesticides for the Efficacy Study in Japan (2006).  
By Yasumitsu MORITA, Masumi ARAI and Kengo KADOTA

(キーワード: 殺虫剤, 殺菌剤, JPPA, 新農薬実用化試験, 平成 18 年度)

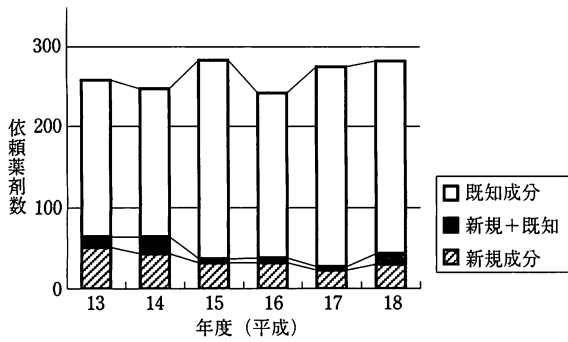


図-2 虫害防除剤効果試験依頼薬剤数の推移

農業 (201 件) を新たな分野として分離させ、タバココナジラミ類防除特別連絡試験 (102 件) も分離して行われたことから、昨年より 400 件程度減少した。作物では、チンゲンサイ・こまつな・しゅんぎくなど、ややマイナーな作物に対する試験が多かった。

果樹分野は、ここ数年続いていた減少傾向に歯止めがかかり、落葉果樹・常緑果樹分野で若干増加した。落葉果樹分野では、本年から試験開始された S-1947WDG をはじめとする新規化合物製剤の試験が活発だった。また、うめを対象とする試験が 50 件実施され、近年最多であった。常緑果樹分野では、サビダニ類の試験が非常に多く、またかつてはほとんど実施されなかったコナジラミ類・キジラミの試験が多かった。

茶分野では、昨年同様カンザワハダニに対する試験が 4 件のみと少なかったが、新規化合物製剤を中心にチャノホソガに対する試験が多く、全体として若干増加した。

芝分野では、既存剤の少水量化を目指した試験が多く、特に大きな変化は見られなかった。

生物農薬分野では、14 剤の製剤について 71 件の試験が実施された。本年から CAS-012 (オオメカメムシ) と ALE-0651 (スワルスキーカブリダニ) の新規天敵製剤 2 種が試験開始され、今後の開発が期待される。

## II 注目される新規化合物を含む薬剤および新規生物製剤

### 【殺菌剤】

平成 18 年度において、試験受託時に未登録の新規化合物を含む薬剤 (生物農薬を除く) は合計 54 剤であった。今年は久しぶりに新規化合物の多い年であり、このうち本年度初めて委託された新規成分のみを含む製剤を表-1 に掲載した。

ALF-0612 顆粒水和剤はなし、りんご、かんきつ等の果樹類に対して試験が実施され十分な防除効果が認めら

表-1 平成 18 年度に初めて依頼のあった新規化合物 (病害防除)

薬剤コード・成分	依頼作物・病害	備考
ALF-0612 顆粒水和剤 50.0%	なし・りんご：黒星病、ぶどう：べと病、おうとう：灰星病、かんきつ：灰色かび病・黒点病・そうか病	
BAF-045 フロアブル 200g/l	いんげん：灰色かび病・菌核病、果菜類：灰色かび病・菌核病、なし・りんご：赤星病・黒星病ほか	
BAF-0506 フロアブル 200g/l	ばれいしょ・トマト：疫病、きゅうり・ぶどう：べと病	
CGC2009 水和剤 100%	稲：もみ枯細菌病・苗立枯細菌病 (種子消毒)	食品添加物
GG-260 MC 剤 12.0%	芝：ブラウンパッチ・ラージパッチ・赤焼病・炭疽病	
HOF-2063 水和剤 2.0%	稲：もみ枯細菌病・苗立枯細菌病 (種子消毒)、いもち病、ばか苗病ほか	銀
KYF-6804 粒剤 85.0%	稲：いもち病	ケイ酸
S-4089 水溶剤 15.0%	なし：心腐れ病	アビゲリシン 塩酸塩

れている。本成分と既知化合物を混合した製剤も開発されており、果樹、野菜等に試験を展開している。化合物の系統、作用機作等は明らかにされていない。BAF-045 フロアブルは果菜類、果樹等を中心にいろいろな病害に対して幅広く試験実施されており、おおむね高い防除効果が認められている。化合物の系統、作用機作等、本成分についても明らかにされていない。本成分と既知化合物を混合した製剤も開発されているようである。CGC2009 水和剤、HOF-2063 水和剤は、いずれも稲の育苗中の病害を対象とした種子消毒剤である。CGC2009 水和剤は成分が明らかにされていないが、一般的な食品添加物とのことである。また HOF-2063 水和剤は成分が銀であり、シードラック水和剤につぐ銀製剤である。KYF-6804 粒剤の成分はケイ酸であり、稲いもち病に対する箱粒剤として開発された。稲苗中のケイ酸含有率といもち病の発生抑制の関係はよく知られているが、農薬として開発されたものである。

表-2 平成18年度に初めて依頼のあった新規化合物(虫害防除)

薬剤コード・成分	作物・病虫害	備考
S-1947 SC・WDG 新規化合物 12.0%・25.0%	なす・トマト・キャベツ・いちご・ねぎ・レタス・茶・なし・もも・ぶどう・りんご・かんきつ アザミウマ類・チョウ目害虫・ハモグリバエ類	速効的な作用
IKR-001 乳剤 アセチル化グリセライド80%	トマト・ピーマン コナジラミ類	忌避剤植物体に散布し、害虫の定着を妨げる
ハーブパケット(改) シトロネラ0.6g/個 ニームオイル 0.6g/個	野菜類 コナジラミ類・アザミウマ類	忌避剤施設内に設置し、香りによって施設への害虫の侵入を妨げる
AKD-1162 乳剤 アザジラクチン 3.0%	なす・トマト・ピーマン・きゅうり コナジラミ類・ハモグリバエ類	チョウ目若齢幼虫にIGR的な効果を示す
ニームラージ・シ ュープリーム 乳剤アザディラク チン 1.0%	キャベツ・ばら コナガ・イバラヒゲナガア ブラムシ・ナミハダニ	チョウ目若齢幼虫にIGR的な効果を示す
KFE-006 乳剤 食添用流動パラフ イン80%	もも・茶 アブラムシ類・カンザワハ ダニ	昆虫の気門を閉鎖して殺虫する

新規生物農薬では、いちごの炭疽病に対してKPP-105水和剤が試験された。成分は細菌であるが、詳細については明らかにされていない(表-3)。

#### 【殺虫剤】

平成18年度の試験受託時に未登録の新規化合物を含む薬剤(生物農薬を除く)は43剤で、単剤は30剤、混合剤は13剤であった。これらのうち本年度初めて委託のあった成分は6剤であった(表-2)。

本年度初めて委託された薬剤のうち、S-1947SC・WDG(住友化学)は、アザミウマ類・各種チョウ目害虫・ハモグリバエ類といった広範な害虫種に速効的な作用を有する新規化合物製剤で、野菜類・果樹類・茶といった多くの作物で試験が実施され、いずれも高い効果が認められていた。今後の開発が大いに期待される。IKR-001乳剤(石原産業)は、アセチル化グリセライドを有効成分とする忌避剤で、植物体に散布することによって

表-3 平成18年度に初めて依頼のあった生物農薬

薬剤名	成分名	対象病虫害名
(病害防除)		
CGC2008水和剤	バリオボラックス属細菌 1×10 <sup>10</sup> cfu/g, 既存細菌 1×10 <sup>10</sup> cfu/g	はくさい・キャベツ:根こぶ病
KPP-105水和剤	細菌2×10 <sup>10</sup> cfu/g	いちご:炭疽病
KUF-1802顆粒 水和剤	<i>Bacillus subtilis</i> 2.0× 10 <sup>10</sup> cfu/g, ポリオキシ ン複合体20.0%	きゅうり:うどんこ病
KUF-1803顆粒 水和剤	<i>Bacillus subtilis</i> 2.0× 10 <sup>10</sup> cfu/g, メバニゾリ ム20.0%	きゅうり:うどんこ病
OYKファーミン グブロック	バチルスズブチルス類 緑菌 OYK菌 1×10 <sup>9</sup> cfu/ml	トマト:葉かび病
(虫害防除)		
ALE-0651	スワルスキーカブリダニ ( <i>Amblyseius swirskii</i> )	ピーマン・いちご:コナジラミ類・アザミウマ類・ハダニ類
CAS-012	オオメカメムシ( <i>Piocoris varius</i> )	いちご:アザミウマ類
AKD-1160顆粒 水和剤	<i>Bacillus thuringiensis</i> 10% (kurstaki系)	りんご・茶 リンゴコカクモン ハマキ・チャノコ カクモンハマキ・ チャハマキ

コナジラミ類の定着を阻害する。まだ試験件数は少ないものの、ある程度の防除効果が認められていた。

また、同じ忌避剤として、ハーブパケット(改)(ロータリー)が試験開始されており、こちらは施設内への設置により、香りによって施設への害虫の侵入を妨げることを目的としている。AKD-1162乳剤(アグロカネショウ)は、幼若ホルモン様作用を有するアザディラクチンを有効成分とする薬剤で、果菜類のコナジラミ類・ハモグリバエ類を対象に試験が実施され、おおむね良好な結果が得られていた。昨年度から試験中のIKI-0012乳剤(アザジラクチン:石原産業)は、トマトのコナジラミ、キャベツのアブラムシ・アオムシなどで、本年初めて実用性ありの判定を受けた。

新規生物農薬のうち、CAS-012(アグリ総研)は、九州から本州まで日本国内に広く分布する在来種で、アザミウマ類・コナジラミ類等の複数種の微小害虫やチョ

ウ目害虫等の卵を捕食するオオメカメムシを製剤化したもの、ALE-0651 (アリストライフサイエンス) は、地中海地域原産でコナジラミ類・アザミウマ類・ハダニ類などを捕食するスワルスキーカブリダニを製剤化したものである。近年、ウイルス製剤や糸状菌製剤の開発が多かった生物農薬において、新たな天敵昆虫 (ダニ) 製剤として、今後の開発が期待される (表-3)。

### III その他注目された事項

#### 1 家庭園芸用農薬について

近年ガーデニングへの関心の高まりから、当協会においても家庭園芸向けの農薬について多くの試験が委託されるようになり、今年度は病害、虫害を合わせると 300 件に近い件数となった。

従来、これらの多くは新農薬実用化試験 (稲・野菜等) の各地域成績検討会において検討されてきたが、これらの農薬は製剤あるいは散布形態が特殊なものもあり、一般の薬剤と同一の判断基準などにおいてはやや検討しにくいことや、検討に多くの時間を取るようになったため、より円滑な検討会運営をはかることを理由に、今年度から新農薬実用化試験 (稲・野菜等) とは別枠の検討に変更した。

表-4 に今年度試験された家庭園芸用農薬の成分と、実用性ありと判定された主な対象病害虫を記載した。これらの薬剤のうち最も多い処理形態は、500 ml 程度のプラスチックボトルなどにそのまま散布できる希釈液を入れトリガーを繰り返し引くことによって散布するスプレー剤で、12 剤が依頼された。ほとんどが殺虫、殺菌成分の両方を複数含んでいるが、YE-641AL やカダンセーフのように 1 成分 (還元澱粉糖化物、ソルビタン脂肪酸エステル) で病害、虫害に効果がある製剤もある。その他従来からのエアゾール剤、家庭園芸専用の顆粒水溶剤、粒剤等もあり、これらの対象は花き類を中心にきゅうり、なす、いちご、はくさい等の食用作物にも広く及んでいる。

#### 2 稲いもち病に対する新規製剤

今年度はいもち病に対して三つの新規化合物を含む製剤が実用性ありと判定された。

BCF-051 粒剤はバイエルクロップサイエンス (株) が開発したイソチアニルを含む新規の粒剤でいもち病のほか、白葉枯病、穂枯れ (ごま葉枯病菌) 等に試験されている。イソチアニルは 1 ha 当たり 200 ~ 300 g の薬量で根から吸収移行することにより、病害に対して抵抗性作用を誘導すると依頼者によって説明されている。既存の箱粒剤の抵抗性誘導剤と比較して成分量が 3% と比較

的低いことが特長である。本剤は育苗箱当たり 50 g の播種時覆土前処理、覆土混和处理、床土混和处理、移植当日処理のほか、10 a 当たり 1 kg 本田散布処理でも実用性ありと判定されており、同一製剤で箱処理から本田散布処理まで使える剤として注目される。なお、本成分と殺虫成分の混合剤が今年から新たに試験実施されている。

AF-0201 粉剤 DL は明治製菓 (株) が開発した新規製剤で化合物名、作用機作等は明らかにされていない。本剤は本田での 10 a 当たり 3 ~ 4 kg 散布で対照薬剤のブラシヤカスラブサイドとほぼ同程度の十分な防除効果があり、登録が期待される。本剤は葉いもち、穂いもち共に試験されどちらにも効果があるが、依頼者によれば穂いもちを主とする防除剤として位置づけられる模様である。

P-2 液剤も明治製菓 (株) により開発された製剤で、成分はしいたけ子実体抽出物である。本剤は稲いもち病に対する抵抗性を誘導すると説明されており、今年度 200 倍液、400 倍液本田散布処理で実用性ありと判定されている。成分から考えれば、比較的使用時期や回数などに制限が少ない剤であると推測でき、今後の展開に注目される。

#### 3 生物農薬の混合剤

今年度は、新たに二つの成分を混合した製剤が登場した。CGC2008 水和剤はバリオボラックス属細菌 (CGC2006 水和剤) と既存細菌の生物農薬どうしを混合した製剤で、はくさい、キャベツの根こぶ病に試験されている。CGC2006 水和剤はアブラナ科の根こぶ病に試験され、現在登録申請中である。

KUF-1802 顆粒水和剤、KUF-1803 顆粒水和剤は *Bacillus subtilis* (エコショット) とそれぞれ化学農薬のポリオキシシン複合体、メパニピリムを混合した製剤で、きゅうりのうどんこ病に試験された。生物農薬に混合された成分はどちらも *Bacillus subtilis* に影響がなく、植物体表面上のうどんこ病を含めた微生物を化学農薬で殺菌した後、*Bacillus subtilis* を定着させやすくすることで、病害に対するより高い効果をねらったものである。

#### 4 今年度実施された特別連絡試験について

##### (1) タバココナジラミ類防除特別連絡試験

近年タバココナジラミバイオタイプ Q が西日本から急速に分布を拡げ、防除対策が喫緊の課題となっていることから、その防除薬剤の早期登録を目指して平成 18 年度緊急対策事業として標記連絡試験を実施した。昨年 12 月 21 日に 15 県 20 試験場の試験担当者と同関係各県および農薬メーカーの担当者など 120 名以上が参集して検討会を開催した。

表-4 平成 18 年度試験された家庭園芸用農薬一覧

薬剤名	有効成分名・量	会社名	実用性ありと判定された主な対象
EL-CB4 AL 剤	既知化合物 0.005%, 既知化合物 0.025%	アース製薬(株)	つつじ: ツツジゲンバイ
GL-37 (スプレー)	クロチアニジン 0.008%, フェンプロパトリン 0.01%, ミクロブタニル 0.008%	住化武田農薬(株)	きく: 白さび病(判定済), ばら: ハダニ(継続)
GL-38 (スプレー)	フェンプロパトリン 0.01%, ミクロブタニル 0.0025%	住化武田農薬(株)	なす・きゅうり・いちご・ばら他: うどんこ病, きゅうり・トマト・いちご・ばら・きく他: アブラムシ類, なす: タバココナジラミ類など 25 対象
SYJ-177 顆粒水溶剤	チアメトキサム 2.5%, エマメクチン安息香酸塩 0.25%, ジフェノコナゾール 2.5%	シンジェンタ ジャパン(株)	きゅうり・いちご・ベゴニア他: うどんこ病, きく: 白さび病, なす・いちご・きく・ばら他: ハダニ類など 15 対象
SYJ-179 スプレー	チアメトキサム 0.005%	シンジェンタ ジャパン(株)	だいず: アブラムシ類, なす: マメハモグリバエ, きゅうり: タバココナジラミ類, かんきつ: カメムシ類など 6 対象
SYJ-181 スプレー	チアメトキサム 0.005%, エマメクチン安息香酸塩 0.0005%, ジフェノコナゾール 0.005%	シンジェンタ ジャパン(株)	トマト: 葉かび病, いちご・ベゴニア・ペチュニア: うどんこ病, なす: オンシツコナジラミ, きゅうり: コナジラミ類, トマト・きく他: アブラムシ類など 14 対象
YE-641AL	還元澱粉糖化物 0.6%	協友アグリ(株)	きゅうり・ばら他: うどんこ病, なす・パーベナ: アブラムシ類, いちご: ワタアブラムシなど 7 対象
YS-051 液剤	フェンプロパトリン 0.01%	ヤシマ産業(株)	きく: アブラムシ類(判定済)
アタックワン AL 液剤	ビフェントリン 0.0030%, ミクロブタニル 0.0080%	日本農薬(株)	さくら: アメリカシロヒトリ・モンクロシャチホコ
アドマイヤー 1 粒剤	イミダクロプリド 1.0%	バイエル クロップサイエンス(株)	カーネーション: アブラムシ類
オンコル粒剤 1	ベンフラカルブ 1.0%	大塚化学(株)	だいごん・バンジー: アブラムシ類, はくさい: コナガ
ガーデニック 粒剤	クロチアニジン 0.125%, プロペナゾール 10.0%	住化武田農薬(株)	ピーマン・ガーベラ: うどんこ病, ピーマン: アブラムシ類, クロトン: ミカンコナカイガラムシ
カダンセーフ	ソルビタン脂肪酸エステル 0.14%	フマキラー(株)	ベゴニア: うどんこ病, きゅうり: アブラムシ類, カーネーション: ナミハダニ
カルホス AL 剤	イソキサチオン 0.05%	三共アグロ(株)	きく: マメハモグリバエ, つつじ: ツツジゲンバイ
サンヨール液剤 AL	DBEDC 0.04%	米澤化学(株)	グラジオラス: アブラムシ類
ベジタメート AL	ベルメトリン 0.01%	北興化学工業(株)	ブロッコリー・いちご・レタス: アブラムシ類, はくさい: ヨトウムシ
ベニカ DX エアゾール	ベルメトリン 0.10%, プロフェジン 0.20%, ミクロブタニル 0.10%	日本農薬(株)	さくら: モンクロシャチホコ
ベニカ D スプレー	クロチアニジン 0.0080%, エトフェプロックス 0.050%	住化武田農薬(株)	さくら: アメリカシロヒトリ・モンクロシャチホコ
花セラピー	フェンプロパトリン 0.01%, ヘキサコナゾール 0.002%	八洲化学工業(株)	かなめもち: ごま色斑点病(継続)

これまでは問題となる害虫のみを対象として対策事業を実施してきたが、オンシツコナジラミとタバココナジラミバイオタイプ B については微小ながらも形態から何とか区別が付いたが、バイオタイプ B と Q は現場の防除場面で区別することはまず不可能であることから、今回は「タバココナジラミ類」を対象害虫とすることとした。これまで関係する登録対象害虫名としては「オンシツコナジラミ」「シルバーリーフコナジラミ」「タバココナジラミ」「コナジラミ類」であった。これは試験が実施された時代により当時問題となっていた種を取り上げ、登録害虫名にしていたことによるものであるが、指導上は例えば「シルバーリーフコナジラミ」のみの登録であるとオンシツコナジラミはもちろんバイオタイプ Q に対しても使用できないことになり近年特に混乱していた。農水省としては昨年バイオタイプ B と Q を括って「タバココナジラミ類」という害虫名を登録上新たに使用し、さらに少なくともオンシツコナジラミとバイオタイプ B に効果が得られるものは「コナジラミ類」に統一する方向で整理を進め、広く使えるように拡大する方針である。ただしこの場合「コナジラミ類」として登録はあるものの、バイオタイプ Q に効果が得られない場合があるので防除指導の際には感受性の確認が必要となる。

検討会では 19 薬剤 6 作物で延べ 97 件の試験が集中的に検討され、薬剤と作物の組み合わせで 18 の対象について実用性ありと判定された。

#### (2) KI-82, 83 特別連絡試験

KI シリーズはサンケイ化学が開発しているフェロモン製剤で、直径 10 mm の球形鉱物質製剤に成分を含浸させたものである。本シリーズは昨年度 KI-81 から始めたが、基本的に対象害虫 1 種ごとに 1 製剤とし、現場の害虫の発生様相に合わせて個別製剤を組み合わせで無駄なく提供することである。また本製剤の特徴として成分の放出は温度依存性が低く、従来製剤と比べより長期にわたり安定した放出特性をもち、さらに設置ポイント数も従来より少ない 50 ポイントとした。昨年度の KI-81 はナシヒメシンクイ、本年度の KI-82 はハマキ

ガ類、KI-83 はモモシンクイガが対象である。本年度は KI-82 が 6 場所、KI-83 が 3 場所で実施され、発生が認められた試験ではおおむね良好な結果となった。

#### (3) プルートル MC 特別連絡試験

本製剤は昆虫成長制御剤であるピリプロキシフェンを有効成分として、茶のクワシロカイガラムシ防除剤として開発され、現在農薬登録申請中である。2005 年度より実用場面での各種情報を集める目的で特別連絡試験を組織している。従来の薬剤の多くは若齢幼虫に直接処理する必要があったため農繁期である夏場に使用することになるが、本剤は高い殺虫活性と長期残効性により、雌成虫しかいない越冬休眠期に当たる農閑期（1～3 月）の散布により高い防除効果が確認されている。2005 年度 8 場所、2006 年度 10 場所で各種試験が実施され、越冬休眠期（1～3 月）の散布により長期間密度を抑制することに加え、多くのクワシロカイガラムシの天敵類に影響がないことも確認され、実用化が期待された。

#### (4) コンフューザー V 特別連絡試験

本剤は数種の合成性フェロモンを混合し、コナガ、オオタバコガをはじめ、畑作野菜で問題となる各種チョウ目害虫を交信かく乱効果によって一度に防除する農薬として、平成 16 年に登録を取得し、平成 18 年 10 月 18 日付けでも類・豆類（種実）にも適用拡大され、各地で普及が図られている。本年の試験では、有効成分ウワバルアを増強させた改良剤の効果検討、現行コンフューザー V の現地における効果確認、並びにコナガコンプレックスのヨトウムシへの適用拡大に向けた効果検討と多岐にわたる試験が実施された。

#### (5) エコピタ液剤特別連絡試験

エコピタ液剤は、協友アグリが開発し平成 17 年に新規登録された還元澱粉糖化物を有効成分とする農薬で、人畜・有用生物に対する高い安全性が特徴である。本特別連絡試験では、ハダニ類をはじめとする難防除病害虫が問題となるいちご促成栽培において、エコピタ液剤を中心に天敵製剤の導入も視野に入れた防除体系の構築を目的としている。現在試験中で、平成 19 年夏に成績検討会を開催予定である。

表-5 平成 18 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・抜粋 (病害防除: 稲・麦)

作物名	病害虫名	薬 剤 名	作物名	病害虫名	薬 剤 名
稲	いもち病	AF-0201 粉剤 DL, BAC-0501 粒剤, BAC-0603 粒剤, BCF-051 粒剤, KF-31FL, KUM-034 ゾル, MMH-2051 粒剤, MN-06 粒剤, MS-1012 粒剤, NNIF-0562 粒剤, NNIF-0655 粒剤, NNIF-0660 粒剤, S-8079 箱粒剤, ノンプラスダントツフロアブル, ハスラー H 粉剤 DL, ブイゲットプリンス粒剤 10, ブイゲットプリンス粒剤 6, 嵐スタークル箱粒剤	稲	白葉枯病	Dr.オリゼ箱粒剤, ブイゲットプリンス粒剤 10, ブイゲットプリンス粒剤 6
				内穎褐変病	KUM-051 粉剤 DL
				苗立枯病 (フザリウム菌)	ダコレート水和剤
				褐条病	HOF-2062 水和剤, HOF-2063 水和剤
				いもち病 (苗いもち)	ダコレート水和剤
いもち病 (穂)	BAC-0602 粒剤, HMC-06 粒剤				
いもち病 (葉)	P-2 液剤				
小麦	紋枯病	BAC-0501 粒剤, BAC-0603 粒剤, NNIF-0655 粒剤, イモチエース粒剤, ダントツリンバー粒剤, ハスラー H 粉剤 DL, モンガリット 1 キロ粒剤, 嵐スタークル箱粒剤	小麦	赤かび病	KNF-6001 乳剤, オーンサイド水和剤 80, 撒粉ボルドー粉剤 DL
				紅色雪腐病	NNF-0522 フロアブル
				雪腐小粒菌核病	NNF-0522 フロアブル, チルト乳剤 25
	うどんこ病	パンチョ顆粒水和剤			
もみ枯細菌病	Dr.オリゼ箱粒剤, ビルダープリンス粒剤, ブイゲットプリンス粒剤 6				
麦類	赤かび病	KNF-5002 粉剤 DL			

18 年度は 79 薬剤 423 試験が実施され, 61 課題について実用性ありと判定された。薬剤数, 試験数共に昨年度より増加したが, 新規化合物を含む薬剤の判定は 2 年目以降になるためここには掲載されていない。本年度初めて実用性ありと判定された AF-0201 粉剤 DL, BCF-051 粒剤, P-2 液剤 (いずれもいもち病対象) については別項を参照。試験実施場所が限られる白葉枯病についても例数が蓄積され本年も 3 薬剤について実用性ありと判定された。

表-6 平成 18 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・抜粋 (病害防除: 野菜花き)

作物名	病害虫名	薬 剤 名	作物名	病害虫名	薬 剤 名
ばれいしよ	軟腐病	アグレプト液剤, カスミンボルドー	だいず	紫斑病	KUF-1204 顆粒水和剤, KYIF-6702 粉剤 DL, NNIF-0541 粉剤 DL, アミスタートレボン SE
	疫病	NC-229 フロアブル, NF-162 顆粒水和剤, SCF-005SC, SYJ-169WG, SYJ-446SC, リライアブルフロアブル			
	そうか病	キルバー液剤	あずき	褐斑細菌病	フェスティバル C 水和剤
やまのいも	葉渋病	アミスター 20 フロアブル		茎疫病	SYJ-446SC
	炭疽病	アミスター 20 フロアブル, ベンコゼブ水和剤	さやいんげん	灰色かび病	アミスター 20 フロアブル
だいず	べと病	SYJ-446SC, ランマンフロアブル	てんさい	斑点細菌病	カスミンボルドー
	腐敗粒	アミスター 20 フロアブル		葉腐病	バシタック水和剤 75, フリントフロアブル 25
	茎疫病	ライメイフロアブル, ランマンフロアブル, リドミル MZ 水和剤		褐斑病	BAF-045 フロアブル, BAF-0505 フロアブル, フリントフロアブル 25
				根腐病	アミスター 20 フロアブル

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
こんにゃく	葉枯病	コサイド DF	かぼちゃ	うどんこ病	シグナム WG, テーク水和剤, ハツパ乳剤
	根腐病	ランマンフロアブル		だいこん	白さび病
なす	灰色かび病	ブロードワン顆粒水和剤	はくさい	軟腐病	IC ボルドー 66D・水和剤
	褐色腐敗病	サンボルドー水和剤, フェスティバル C 水和剤, フォリオゴールドフロアブル		べと病	SYJ-169WG, フォリオゴールドフロアブル
	菌核病	KUF-1204 顆粒水和剤, ダイアメリット DF	白斑病	トップジン M ゾル, ベンコゼブ水和剤, ベンレート水和剤	
	黒枯病	ドーシャスフロアブル	根こぶ病	NC-224 粉剤, SCF-005SC, ランマンフロアブル	
	うどんこ病	エコピタ液剤, スコア顆粒水和剤	白さび病	アミスターオプティフロアブル	
トマト	疫病	SCF-005SC	キャベツ	軟腐病	IC ボルドー 66D・水和剤
	灰色かび病	KUF-1204 顆粒水和剤, アミスターオプティフロアブル, ブロードワン顆粒水和剤		べと病	SYJ-446SC, ランマンフロアブル
	葉かび病	KUF-1204 顆粒水和剤, シグナム WG, ダコニール 1000		株腐病	MTF-753 フロアブル
	菌核病	ダイアメリット DF		菌核病	ディ・トラベックス油剤, フロンサイド粉剤, ベルクートフロアブル
ピーマン	斑点病	アミスターオプティフロアブル, ドーシャスフロアブル	根こぶ病	ランマンフロアブル	
	黒枯病	トップジン M 水和剤	ブロッコリー	花蕾腐敗病	コサイド DF
	うどんこ病	スコア顆粒水和剤	べと病	ヨネボン水和剤	
きゅうり	べと病	SCF-005SC, SYJ-169WG	根こぶ病	フロンサイド SC	
	灰色かび病	KPP-204 顆粒水和剤	非結球あぶらな科葉菜類	根こぶ病	ネビジン粉剤
	褐斑病	シグナム WG, ベンコゼブ水和剤	みずな	根こぶ病	ネビジン粉剤
	黒星病	ドーシャスフロアブル, ベンコゼブ水和剤	たかな	白さび病	ヨネボン水和剤
	うどんこ病	KPP-204 顆粒水和剤, シグナム WG	いちご	疫病	SYJ-169WG
メロン	えそ斑点病	TMZ-9911 液剤	うどんこ病	スコア顆粒水和剤, ハチハチフロアブル	
	べと病	SYJ-158SC, SYJ-169WG	ねぎ	べと病	フォリオゴールドフロアブル
	うどんこ病	スコア顆粒水和剤, フルピカくん煙剤	葉枯病	ダコニール 1000	
すいか	褐色腐敗病	フェスティバル C 水和剤, フォリオゴールドフロアブル	黒斑病	ドーシャスフロアブル	
	炭疽病	IC ボルドー 66D・水和剤	白絹病	キルバー液剤	
	つる枯病	テーク水和剤	小菌核腐敗病	ジマンレックス水和剤	
	うどんこ病	ダイアメリット DF	たまねぎ	べと病	SYJ-169WG
かぼちゃ	べと病	テーク水和剤, フォリオゴールドフロアブル	灰色腐敗病	KUF-1204 顆粒水和剤, MTF-753 フロアブル, カンタスドライフロアブル	
	疫病	フェスティバル C 水和剤			



作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
らっきょう	乾腐病	トリフミン水和剤	みょうが	根茎腐敗病	クロピクフロー
	白色疫病	SYJ-158SC	きく	白さび病	硫黄粒剤
レタス	軟腐病	IC ボルドー 66D・水和剤	ばら	黒星病	兼商ステンレス
	べと病	SYJ-446SC, プロプラント液剤 (TMF-9911)		うどんこ病	サンクリスタル乳剤
	すそ枯病	フロンスайд SC	ストック	萎凋病	クロルピクリン錠剤
ごぼう	黒あざ病	ダブルストッパー		萎凋病 (フザリウム菌)	ソイリーン
にんじん	斑点病	アミスターオプティフロアブル	りんどう	花腐菌核病	ベンレート水和剤, インダーフロアブル
	菌核病	ベルコート水和剤	ガーベラ	うどんこ病	エコピタ液剤
パセリ	斑点病	サンヨール, ヨネボン	ペチュニア	うどんこ病	パンチョ TF 顆粒水和剤
おくら	苗立枯病	パンソイル乳剤	バーベナ	うどんこ病	エコピタ液剤, パンチョ TF 顆粒水和剤
しょうが	根茎腐敗病	クロピクフロー			

18年度に依頼された薬剤数は101剤, 試験数は前年よりやや多い942件であった(家庭園芸用農薬を除く)。総検討課題数497のうち151の対象について実用性ありと判定された。登録薬剤がなかったピーマン黒枯病に対してトップジンM水和剤, パセリ斑点病に対してサンヨール, ヨネボンが本年度初めて実用性ありと判定された。

表-7 平成18年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・抜粋(病害防除:果樹・茶・芝草)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
なし	黒星病	DAF-0601水和剤, KUF-1204顆粒水和剤, エコショット, オンリーワンフロアブル	ぶどう	晩腐病	ナリアWDG, フリントフロアブル25(休眠期)
	心腐れ症(胴枯病菌)	チオノックフロアブル		さび病	オンリーワンフロアブル
	うどんこ病	オーシャイン水和剤, オンリーワンフロアブル	かき	落葉病	ストライド顆粒水和剤, リナセル顆粒水和剤
もも	せん孔細菌病	NF-156フロアブル		うどんこ病	ナリアWDG
	灰星病	KUF-1204顆粒水和剤, チオノックフロアブル	いちじく	さび病	アミスター10フロアブル
	黒星病	ナリアWDG		白紋羽病	フロンスайдSC
	白紋羽病	フロンスайдSC	りんご	赤星病	DAF-0601水和剤, チオノックフロアブル
	縮葉病	チオノックフロアブル		斑点落葉病	BCF-062水和剤, DAF-0601水和剤, パスポート顆粒水和剤
すもも	灰星病	スコア顆粒水和剤		褐斑病	DAF-0601水和剤, KUF-1204顆粒水和剤, インダーフロアブル, オンリーワンフロアブル, パスポート顆粒水和剤
	黒斑病	NF-156フロアブル		黒点病	DAF-0601水和剤, インダーフロアブル
あんず	かいよう病	アグレプト水和剤		黒星病	DAF-0601水和剤, KUF-1204顆粒水和剤, オンリーワンフロアブル
	灰星病	インダーフロアブル, サンリット水和剤		モニリア病	DAF-0601水和剤, KUF-1204顆粒水和剤, パスポート顆粒水和剤
うめ	黒星病	アミスター10フロアブル, スコア顆粒水和剤			
ぶどう	べと病	SCF-005SC			
	灰色かび病	オンリーワンフロアブル, ポリベリン水和剤			

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
りんご	すす点病・すす斑病	アリエッティ水和剤, パスポート顆粒水和剤, ビオネクト	茶	輪斑病	KUF-1204 顆粒水和剤
	炭疽病	チオノックフロアブル		新梢枯死症	ストライド顆粒水和剤
おうとう	灰星病	ALF-0612 顆粒水和剤, BAF-0505 フロアブル, パンチョ TF 顆粒水和剤		芝	炭疽病
	褐色せん孔病	アミスター 10 フロアブル, キノンドーフロアブル, ビスダイセン水和剤	ガラススポット病		KNF-45 フロアブル, MTF-753 顆粒水和剤, ボンジオルノ乳剤
	幼果菌核病	KUF-1204 顆粒水和剤, ダイマジン水和剤	疑似葉腐病 (春はげ症)		NNF-9941 水和剤
さくら	幼果菌核病	サンリット水和剤	カーブラリア葉枯病		GG-215 水和剤, MTF-753 顆粒水和剤, パッチコロロン水和剤, ベンレート水和剤
	かんきつ	かいよう病	NNF-0620 フロアブル		葉腐病 (ブラウンパッチ)
灰色かび病		ポリベリン水和剤	葉腐病 (ラージパッチ)		SYJ-206SC
そうか病		KUF-1204 顆粒水和剤	紅色雪腐病		NF-160 顆粒水和剤, バナーマックス液剤
貯蔵病害 (黒腐病)		NF-165SC	雪腐小粒菌核病		NF-160 顆粒水和剤, グランサー水和剤
汚れ果症		ベンコゼブ水和剤	赤焼病		ランマンフロアブル
茶	網もち病	SYJ-168SC, ダコニール顆粒水和剤	さび病		バナーマックス液剤
	もち病	ダコニール顆粒水和剤	炭疽病	MTF-753 顆粒水和剤, ターフトップ DF	
	赤焼病	IC ボルドー 66D・水和剤			

18 年度に依頼された試験は落葉果樹 42 薬剤 266 試験, 寒冷地果樹 29 薬剤 176 試験, 常緑果樹で 14 薬剤 61 試験であった。各区分 40 ~ 60 件の試験増加となった。さくら (啓翁桜) 幼果菌核病は, おうとうの同病害の感染源となるため寒冷地果樹の分野で検討された。なお, 茶は 12 薬剤 57 試験, 芝草 25 薬剤 134 試験であった。

表-8 平成 18 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤 (病害防除: 生物農薬)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
稲	苗木枯病 (リゾープス菌)	KNB-L422 フロアブル, エコホープ DJ	トマト	葉かび病	IK-200 乳剤, エコショット, バイオワーク水和剤
	苗木枯病 (トリコデルマ菌)	KNB-L422 フロアブル, KNB-S422 培土	きゅうり	うどんこ病	KUF-1802 顆粒水和剤, KUF-1803 顆粒水和剤
	褐条病	エコホープ DJ	いがうり	つる割病	セル苗元気・暗褐色 (不定型) 粒状
	もみ枯細菌病 (種子消毒)	IK-155 水和剤, エコホープ DJ	いちご	炭疽病	IK-200 乳剤
	苗木枯細菌病 (種子消毒)	IK-155 水和剤, エコホープ DJ	トルコギキョウ	うどんこ病	IK-200 乳剤, ボトキラー水和剤
	いもち病 (種子消毒)	IK-155 水和剤		灰色かび病	ボトキラー水和剤
	ばか苗病 (種子消毒)	IK-155 水和剤, エコホープ DJ	ビオラ	灰色かび病	ボトキラー水和剤
トマト	灰色かび病	エコショット	ホップ	灰色かび病	インプレッション水和剤

本年度初めて依頼があった 5 薬剤を含め 18 薬剤について 146 試験が実施された。きゅうりうどんこ病に実用性ありとなった KUF-1802 顆粒水和剤はバチルス ズブチリスとポリオキシン, KUF-1803 顆粒水和剤はバチルス ズブチリスとメバニピリムとの混合剤で, 生物農薬と化学成分の混合剤は初めての登場である。ボトキラー水和剤はいずれもダクト内処理で実用性ありとなった。

表-9 平成18年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・拔粋(虫害防除:稲・麦)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
稲	ウンカ類	HM-0601粒剤, BAC-0603粒剤, BCM-051粒剤, BCM-061粒剤, BCM-062粒剤, KUM-034ゾル, キラップフロアブル, ダントツフロアブル, ブラシダントツフロアブル, プラスタップダントツフロアブル, ラブサイドダントツフロアブル, MTI-0502フロアブル, MS-1012粒剤, NNIF-0660粒剤	稲	ニカメイチュウ	BAC-0603粒剤
			コブノメイガ	BAC-0603粒剤, BCM-062粒剤, MTI-0502フロアブル, MS-1012粒剤, HM-2054フロアブル, HM-0601粒剤	
			イネツトムシ	BAC-0603粒剤, ブイゲットプリンスバリアードL粒剤	
			フタオビコヤガ	BCM-062粒剤	
	ツマグロヨコバイ	BAC-0603粒剤, BCM-061粒剤, BCM-062粒剤, KUM-034ゾル, アミスタートレボンSE, MS-1012粒剤, HM-2054フロアブル, NNIF-0660粒剤		イネドロオイムシ	BCM-061粒剤, BCM-062粒剤, S-8079箱粒剤L
	カメムシ類	BCM-051粒剤, HM-2053フロアブル, KUM-034ゾル, ダントツフロアブル, ノンプラスダントツフロアブル, AF-0203粉剤DL, MTI-0502フロアブル, HMC-06粒剤, ダントツリンバ一粒剤		イネミズゾウムシ	BAC-0603粒剤, BCM-061粒剤, BCM-062粒剤, S-8079箱粒剤L, MS-1012粒剤, NNIF-0660粒剤
	イネクロカメムシ	デジタルコラトップアクタラ箱粒剤, ビルダースタークル箱粒剤, MTI-446粒剤2		イネシנגレセンチュウ	ブイゲットグランドオンコル粒剤
			小麦	アブラムシ類	BAI-0502液剤, アドマイヤー顆粒水和剤, サイハロン乳剤, チェス顆粒水和剤, モスピランSL液剤, マブリックEW

平成18年度は稲・麦用に82剤のべ561件の試験が受託され、昨年より大幅に増加した。新規殺虫成分で初めて実用性ありの判定を受けた化合物はなかった。これまであまり登録が進まなかったイネクロカメムシに3剤が実用性ありの判定を受けた。

表-10 平成18年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・拔粋(虫害防除:野菜・花き)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
ばれいしょ	アブラムシ類	アドマイヤー顆粒水和剤, サイハロン乳剤, チェス顆粒水和剤	だいず	ダイズシストセンチュウ	バイデートL粒剤
かんしょ(苗床)	アブラムシ類	ダントツ粒剤	あずき	ノメイガ類	ジェイエース水溶剤
やまのいも	アブラムシ類	ジェイエース水溶剤, モスピランSL液剤		タネバエ	クルーザーFS30
	ネキリムシ類	ガードベイトA	ダイズシストセンチュウ	バイデートL粒剤	
だいず	カメムシ類	キラップフロアブル, ダントツフロアブル, HM-2051フロアブル, MTI-446液剤	いんげんまめ	アブラムシ類	ウララDF
	マメシンクイガ	HM-2051フロアブル, オルトラン水和剤, ゲットアウトWDG, NNIF-0541粉剤DL		ハスモンヨトウ	プレオフロアブル
	ハスモンヨトウ	DKI-0001フロアブル		タネバエ	クルーザーFS30
	フタスジヒメハムシ	クルーザーFS30, ダントツ粉剤DL, モスピラン水溶剤	とうもろこし	アブラムシ類	チェス顆粒水和剤
				アワノメイガ	エスマルクDF
				アワヨトウ	ゲットアウトWDG
			てんさい	テンサイトビハムシ	MTI-446水溶剤(顆粒)
				テンサイカメノコハムシ	MTI-446水溶剤(顆粒)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
こんにゃく	アブラムシ類	アドマイヤー顆粒水和剤	はくさい	アオムシ	DKI-0001 フロアブル
				ネキリムシ類	ダントツ粒剤
なす	コナジラミ類	ダントツ粒剤	ヨトウムシ	ヨトウムシ	AKD-1161 粉剤 DL, DKI-0001 フロアブル
	アザミウマ類	SYJ-159 乳剤, IKI-220 粒剤		キャベツ	アブラムシ類
	ハスモンヨトウ	DKI-0001 フロアブル, アニキ乳剤	コナガ		SYJ-102 粒剤, プリンスフロアブル, NNI-0501 フロアブル
	テントウムシダマシ	ランネート 45DF	ハイマダラノメイガ		SYJ-170 顆粒水和剤, ダントツ粒剤, DAI-フロアブル
	トマトハモグリバエ	DKI-0001 フロアブル	アオムシ		DKI-0001 フロアブル, IKI-0012 乳剤
	ハダニ類	SYJ-159 乳剤	ウワバ類		アクセルフロアブル, アニキ乳剤
チャノホコリダニ	スターマイトフロアブル (NC-512 フロアブル)	ヨトウムシ	AKD-1161 粉剤 DL, DKI-0001 フロアブル		
トマト	アブラムシ類	コルト顆粒水和剤, ダントツ粒剤	ハスモンヨトウ	DKI-0001 フロアブル, サブリナフロアブル	
	コナジラミ類	IKI-0012 乳剤, IKI-220 粒剤, ウララ DF, モレスタン水和剤, MTI-446 水溶剤 (顆粒), マッチ乳剤	オオタバコガ	アクセルフロアブル, プリンスフロアブル	
	トマトハモグリバエ	DKI-0001 フロアブル	カリフラワー	アブラムシ類	アクタラ粒剤 5
	トマトサビダニ	BCI-041 水和剤		ハイマダラノメイガ	プリンスフロアブル
ピーマン	アザミウマ類	SYJ-159 乳剤	ブロッコリー	コナガ	DKI-0001 フロアブル
	タバコガ	プレオフロアブル		ハイマダラノメイガ	モスピラン粒剤
きゅうり	コナジラミ類	ダントツ粒剤			アオムシ
	ミナミキイロアザミウマ	ダントツ粒剤	チンゲンサイ	アブラムシ類	ジェイエース粒剤, ダントツ粒剤
メロン	アブラムシ類	モレスタン VP ジェット		コナガ	SYJ-170 顆粒水和剤
	コナジラミ類	MTI-446 水溶剤 (顆粒), ウララ DF	こまつな	コナガ	SYJ-170 顆粒水和剤
	アザミウマ類	SYJ-159 乳剤		ハモグリバエ類	SYJ-170 顆粒水和剤
	ハダニ類	スターマイトフロアブル (NC-512 フロアブル), SYJ-159 乳剤	のざわな	アブラムシ類	アクタラ粒剤 5
	ネコブセンチュウ	ネマキック粒剤		コナガ	SYJ-170 顆粒水和剤
		キスジノミハムシ		SYJ-102 粒剤	
すいか	アザミウマ類	SYJ-159 乳剤	みずな	ハモグリバエ類	SYJ-170 顆粒水和剤
	ハダニ類	SYJ-159 乳剤		キスジノミハムシ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
にがうり	コナジラミ類	MTI-446 水溶剤 (顆粒)	なばな	アブラムシ類	オルトラン粒剤
	ハダニ類	サンヨール	いちご	アブラムシ類	コルト顆粒水和剤
だいこん	コナガ	AKD-1161 粉剤 DL		コナジラミ類	BCI-041 水和剤, コルト顆粒水和剤
	ハイマダラノメイガ	アニキ乳剤, SYJ-102 粒剤, SYJ-170 顆粒水和剤		ハスモンヨトウ	DKI-0001 フロアブル
	ヨトウムシ	AKD-1161 粉剤 DL	ハダニ類	IKI-0012 乳剤	
はくさい	アブラムシ類	ウララ DF			
	コナガ	DKI-0001 フロアブル			

作物名	病害虫名	薬 剤 名	作物名	病害虫名	薬 剤 名
ねぎ	ネギアザミウマ	SYJ-159 乳剤	ほうれん そう	アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤, オルトラン 水和剤, ジェイエース水溶剤, ジ ェット VP, ダントツ水溶剤, ダ ントツ粒剤
	シロイチモジヨトウ	DKI-0001 フロアブル		タネバエ	カルホス微粒剤 F, ダイアジノン 粒剤 5
にんにく	イモグサレセンチュ ウ	ネマキック粒剤	ホウレンソウケナガ コナダニ	ボルテージ粒剤 6	
にら	ネギアザミウマ	ダントツ水溶剤	オクラ	アブラムシ類	MTI-446 粒剤 1
アスパラ ガス	ヨトウムシ	プレオフロアブル	フタテンミドリヒメ ヨコバイ	ジェイエース水溶剤	
	ハスモンヨトウ	コテツフロアブル, フェニックス 顆粒水和剤	しそ	アブラムシ類	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
アスパラ ガス	ジュウシホシクビナ ガハムシ	コテツフロアブル, ダントツ水溶 剤, モスピラン水溶剤	カンザワハダニ	エコビタ液剤	
レタス	アブラムシ類	SYJ-102 粒剤, アドマイヤー 1 粒剤	しょうが	ハスモンヨトウ	トルネードエース DF
	ヨトウムシ	DKI-0001 フロアブル	ネコブセンチュウ	ラグビー MC 粒剤	
	オオタバコガ	アクセルフロアブル, サブリナフ ロアブル	れんこん	アブラムシ類	ダントツ粒剤
	ナモグリバエ	DKI-0001 フロアブル, SYJ-102 粒剤, オンコル粒剤 5, プレオフ ロアブル, MTI-446 粒剤 1	ほおずき	ナミハダニ	サンクリスタル乳剤
ごぼう	アブラムシ類	ジェイエース粒剤	きく	アワダチソウグンバ イ	コテツフロアブル
しゅんぎ く	アブラムシ類	アクタラ粒剤 5, ダントツ水溶剤	ばら	チュウレンジハバチ	プリンスフロアブル
	ハモグリバエ類	アクタラ粒剤 5	カーネー ション	オオタバコガ	プリンスフロアブル
にんじん	アブラムシ類	ランネット 45DF	トルコギ キョウ	ネコブセンチュウ	クロビクフロー
	ヨトウムシ	オルトラン水和剤	りんどう	ハダニ類	マイトコーネフロアブル
セルリー	アブラムシ類	モスピラン粒剤	げっきつ	ミカンキジラミ	ダントツ粒剤
	ハモグリバエ類	ダントツ水溶剤, ハチハチフロア ブル			

平成 18 年度は 138 剤, のべ 1,588 件の試験が実施された。本年初めて実用性ありの判定を受けた新規化合物はなかったが, IKI-0012 乳剤が石原産業のアザジラクチン製剤として, 初の実用性あり判定を受けた。その他, 未登録の新規化合物である DKI-0001 フロアブル・SYJ-159 乳剤などが多数の作物に実用性ありの判定を受けた。マイナー作物ではないものの登録がなかなか進まなかった, やまのいも/アブラムシ類・ネキリムシ, あずき/アブラムシ類・ハダニ類・ノメイガ類, こまつな・チンゲンサイ・かぶ/アブラムシ類・ハモグリバエ類, にら/アブラムシ類・ネギアザミウマ, にんじん・ほうれんそう・セルリー・しゅんぎく・しょうが/各種害虫について, 実用性ありの判定を受けた。

表-11 平成 18 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤・抜粋 (虫害防除: 果樹・茶・芝)

作物名	病害虫名	薬 剤 名	作物名	病害虫名	薬 剤 名
なし	コナカイガラムシ類	アドマイヤー顆粒水和剤, ハーベ ストオイル	もも	アブラムシ類	コルト顆粒水和剤
	ケムシ類	フェニックス顆粒水和剤		ハマキムシ類	フェニックス顆粒水和剤
	ハマキムシ類	フェニックス顆粒水和剤		シンクイムシ類	DKI-0002 フロアブル
	シンクイムシ類	フェニックス顆粒水和剤		モモハモグリガ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン		ハダニ類	ダニゲッターフロアブル

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
すもも	ウメシロカイガラムシ	ハーベストオイル	ブルーベリー	アブラムシ類	ダントツ水溶剤
	シンクイムシ類	DKI-0002 フロアブル		ケムシ類	ダントツ水溶剤
	ハダニ類	スターマイトフロアブル (NC-512 フロアブル), ダニゲッターフロアブル	かんきつ	ヤノネカイガラムシ	コルト顆粒水和剤
うめ	アブラムシ類	チェス顆粒水和剤	かんきつ	ミカンキジラミ	マジスターフロアブル
	カメムシ類	アクタラ顆粒水溶剤, ダントツ水溶剤, MTI-446 水溶剤 (顆粒)		アザミウマ類	アドマイヤー顆粒水和剤, ジェイエース水溶剤, モスピラン SL 液剤, モスピラン水溶剤, ALI-0621 乳剤, SYJ-159 乳剤
	ケムシ類	ダントツ水溶剤		ミカンハモグリガ	SYJ-159 乳剤, TI-435 水溶剤 FT
	ハダニ類	オサダンフロアブル		アゲハ類	アニキ乳剤
ぶどう	コナカイガラムシ類	モスピランジェット	かんきつ	ゴマダラカミキリ	アクタラ顆粒水溶剤, ダントツ水溶剤, リーズン顆粒水和剤, TI-435 水溶剤 FT
	ツマグロアオカシカメ	モスピラン水溶剤		ミカンハダニ	アタックオイル, エコビタ液剤
	ブドウサビダニ	コテツフロアブル		チャノホコリダニ	イオウフロアブル, ルビトックス乳剤
かき	ヒメコスカシバ	スカシバコン L	かんきつ	ミカンサビダニ	ALI-0621 乳剤, オサダンフロアブル, サンマイト水和剤, ダニエモンフロアブル, マジスターフロアブル
	カキノヘタムシガ	バリアード顆粒水和剤, フェニックス顆粒水和剤			
いちじく	イチジクヒトリモドキ	モスピラン水溶剤	キウイフルーツ	キウイヒメヨコバイ	モスピラン SL 液剤
りんご	アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	キウイフルーツ	カメムシ類	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
	リンゴワタムシ	モスピラン水溶剤		マンゴー	チャノキイロアザミウマ
	クワコナカイガラムシ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)	茶	クワシロカイガラムシ	コルト顆粒水和剤
	ハマキムシ類	アニキフロアブル, DKI-0002 フロアブル		チャノミドリヒメヨコバイ	BCI-061 フロアブル, コルト顆粒水和剤, TI-435 水溶剤 FT, DAI-0602 顆粒水和剤
	シンクイムシ類	TI-435 水溶剤 FT		チャノキイロアザミウマ	BCI-061 フロアブル, SYJ-159 乳剤, コルト顆粒水和剤
	ナシヒメシンクイ	コンフューザー AA	茶	チャノココクモンハマキ	ハマキコン N-06
	ギンモンハモグリガ	DKI-0002 フロアブル, キラップフロアブル		チャノホソガ	DKI-0002 フロアブル, SYJ-159 乳剤
	キンモンホソガ	DKI-0002 フロアブル, コンフューザー AA		チャノナガサビダニ	SYJ-159 乳剤, マジスターフロアブル
リンゴハダニ	マジスターフロアブル	芝	チガヤシロオカイガラムシ	タフバリアフロアブル, SYJ-172 乳剤	
おうとう	カイガラムシ類	ダーズバン DF, ラビサンスプレ-98, ダイアジノン水和剤 34			
	ハマキムシ類	アニキフロアブル, マトリックフロアブル			
	アメリカシロヒトリ	DKI-0002 フロアブル			

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
芝	シバツトガ	オルトラン水和剤, SYJ-208SC	芝	シバオサゾウムシ (成虫)	タフバリアフロアブル
	タマナヤガ	オルトラン水和剤		シバオサゾウムシ (幼虫)	タフバリアフロアブル, フルスウ イング
	スジキリヨトウ	SYJ-208SC			
	コガネムシ類	SYJ-208SC			

平成18年度の落葉果樹分野では46薬剤が依頼され、のべ221件の試験が受託された。寒冷地果樹分野では31剤のべ122件が受託、常緑果樹分野では38薬剤175件が受託、茶分野では26薬剤のべ125件が受託、芝草分野では6剤のべ46件が受託された。DKI-0002フロアブルがもも・すもも・りんご・おうとう・茶の各種チョウ目害虫に初めて実用性ありの判定を受けた。

表-12 平成18年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤 (虫害防除：生物農薬)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
野菜類	タバココナジラミ類	ALE-041	しそ	ハスモンヨトウ	IG-104 水和剤, NK-103 水和剤
	コナジラミ類	ICB-02		ばら	ハダニ類
	ハダニ類	バロン・チリカ	ナミハダニ		スパイカル
レタス	ハスモンヨトウ	NK-103 水和剤	カーネーション	ナミハダニ	スパイカル

平成18年度の生物農薬連絡試験では、14薬剤が依頼され、のべ71件の試験が受託された。本年初めて実用性ありの判定を受けた製剤は、バロン・チリカ(チリカブリダニ)1剤だった。その他注目された事項としては、これまで施設野菜が中心だった天敵製剤が、花き類のハダニ類を対象に防除効果が認められ、実用性ありの判定を受けた。

表-13 平成18年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤 (タバココナジラミ類)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
なす	タバココナジラミ類	アフーム乳剤	ピーマン	コナジラミ類	コロマイト乳剤, ベストガード水溶剤, ベストガード粒剤, MTI-446水溶剤(顆粒)
	コナジラミ類	ベストガード粒剤, MTI-446水溶剤(顆粒)			
トマト	タバココナジラミ類	アタブロン乳剤, アフーム乳剤, サンクリスタル乳剤	きゅうり	コナジラミ類	ベストガード粒剤
	コナジラミ類	ダントツ粒剤, MTI-446粒剤1	メロン	タバココナジラミ類	アフーム乳剤
		コナジラミ類		コロマイト乳剤, ダントツ粒剤, ベストガード粒剤	
			すいか	コナジラミ類	ベストガード水溶剤

本年度緊急対策事業として実施されたタバココナジラミ類防除特別連絡試験では、19薬剤が依頼され、6作物にのべ97件の試験が受託された。薬剤と作物の組み合わせで18の対象について実用性ありと判定された。